

新国立競技場整備事業の技術提案等審査委員会（第11回）

平成28年8月23日

【事務局】 本日は、お忙しいところお集まり頂き、ありがとうございます。

これより、技術提案等審査委員会を開催致します。なお、本委員会の設置要綱の第5（4）に、「委員長は、必要があると認められるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる」とされております。本日は、委員長の求めにより新国立競技場整備事業（第I期）の事業者である「新国立競技場整備事業大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体」にご出席頂き、委員会を開催致します。

まず、理事長より、一言、ご挨拶を申し上げます。

【理事長】 本日は大変お忙しい中、ご出席くださり、誠にありがとうございます。

1月の第1期の設計に関する契約以降、基本設計、実施設計が進められておりますが、第2期の工事に関する契約、12月の本体工事着工に向け、適切な価格等の交渉も進めていく必要があります。折しも、一昨日、リオデジャネイロのオリンピックが終了し、日本代表選手団は、金メダル12個をはじめ過去最高の41個のメダルを獲得するなど活躍致しました。9月のパラリンピックが終わりますと、いよいよ、次は2020年の東京大会に向けて機運が盛り上がり参ります。

私もリオで視察をさせて頂きました。また、松野文部科学大臣、丸川東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣をはじめ多くの関係者にお会いすることができましたことを報告させて頂きます。東京大会のメインスタジアムとなる新国立競技場については、新国立競技場の整備計画に従い、工期とコストを遵守しつつ着実な整備が進められるよう、委員の皆様のご審議をよろしくお願い致します。

【事務局】 ありがとうございました。

本日の資料は、資料1-1、1-2、資料2、資料3、参考資料1、参考資料2となっております。不足がある場合は、事務局までお申し付け下さい。この後の議事進行は、委員長にお願いしたいと思っております。

【〇〇委員】 それでは、早速ですが、議事に入りたいと思っております。

本日は、設計の進捗状況について、設計者から説明を受け、審議することにしております。説明は30分、その後、調査審議を60分と考えておりますので、ご協力をお願いいたします。それでは、説明をお願いします。

【JV（大成）】 最初に、基本的な設計の考え方を隈事務所からご説明致します。まず、ムービーをご覧頂き、その後、説明を行います。

【JV（隈氏）】 ムービーは、全体の流れのようなものについて、図面ではわかりにくいところがありましたので、作成しました。

(ムービーをスクリーンに映写)

【J V (隈氏)】 では、設計の基本的な考え方と今の進捗状況について説明します。杜のスタジアム、このような外観、これをどのようにブラッシュアップしてきたか、そしてどのようなディテールになったかを順次ご説明します。

周辺環境と調和する建物ということで、軒裏のデザイン、これが非常に重要なところとなります。これが軒の底の部分のデザインです。先端の部分をシャープにすることで、全体に軽やかな、杜のスタジアムにしたいということです。こちらの部分が最上階の風の大庇の断面です。こちらの部分は高くメンテが非常に難しい部分ですので、この部分は、アルミ格子を用いています。図のブルーの線が技術提案時のものです。これについて先端を各階とも75mmに統一するため、下からみると75mmというのはかなり細いシャープな線に見えますので、その線に統一するようなデザインにするために、技術提案時はアルミの型材の200角を使ってちょっとぼてっとしていたものを薄くしています。このあたり、実は〇〇委員にもご意見頂き、垂木だから太くてもいいのではないか、という意見を頂いたのですが、各階パースで確認しますと、一番上だけ200角になりますと、そこだけすごくぼてっとした感じになってしまっていて、全体に、下の階と同様のプロポーションを持っている、実は下の階が105×30という無垢の木を使っていて、こちらの部分が200×60という同じプロポーションのもので、全体の統一感がよく図れたデザインになったと思っています。このあたりの樋の形状について工夫して、普通ですとここは200とか300とかになるところ75に納める、しかもその勾配は内勾配で、この植栽の排水に合わせて樋できれいに処理するという、このあたりに苦心してこういうディテールに到達しました。今の風の大庇のところ、技術提案時は、このような200角のアルミ型材を使って、全体が300プラス水切りがついていしますので、全体として600近い、かなりそこだけぼてっとしていたものを、全体を75mmに揃えることができました。それを下から見上げたところがございます。各階全体の調子をそろえることができました。パーセンテージを変えるというのは、ルーバーのピッチを変えることで全体の風の流れをコントロールする、方位によってピッチを変えています。南の方位を密にしまして、南から来た風は下に流すようにして、北からの風はピッチを疎にして、北風が冬に観客席をなめないような当初の考え方でピッチを計画しています。ひとつずつの角度の付け方ですが、当初は検討する時間が十分でなかったためとりあえず均一にしていしましたが、それを柱のところで柱間を3分割するようなパネリングで全体にめりはりをつけ、リズムを与えました、これは法隆寺の絵もお出ししましたが、リズムがないと大きな建物なので、ぼてっとした感じになってしまうところを、リズムを与えることで、垂木効果、法隆寺の庇の裏のようなリズムミカルな垂木効果を出すことができました。技術提案時は均等でしたが、これを柱間で3分割して、リズムを与えることで、全体として当初のわれわれがやりたかった日

本の伝統建築がもっているリズム感を現代に翻訳するというやり方のもとに到達することができたと思います。

次にガラスルーフでございます。このガラスルーフは芝を照らすためにこの面積が必要となります。ガラスのトップライトのパネル割をこれに近い形でフラクタルに近似してこの形としています。この形も上から見たときに、このガタガタが心配という声が〇〇委員からありましたが、実は下からみたとき、これが非常に重要でございます。下から見たときに、構造体とフラクタルがぴったりあっていますので、下から見たときにちゃんと納まっているように見えます。ここに有機的なカーブをもってきてしまいますと、下から見たときに柱のリズムと関係ない線が横切ってしまうので、非常に不自然な感じになってしまいます。上からも全然人が見ないということではなくて、超高層から見ると見えますけど、そのときもこのフラクタルな形状は、全体の柱のなかで違和感なく溶け込むだろうと考えています。

空の柱、この部分は形状が変わりました。実はこの部分はダクトを通さなければいけないという問題があります。そのため、コンペ時はダクトの手前にダクト隠しをつけていました。よくよくこの空間を検討しますと、通路の半分くらいダクト隠しが飛び出していますので、ここを散歩したり走ったりする人にとって非常に不愉快なものが出ております。これをすきっとさせようと、すきっとさせてダクトの部分だけはダクトを見せていこうと、これは機能的に必要ですから、これをみせた方が機能的で現代的なデザインになるだろうと考えました。これをどういうふうに見せるかと、これは、〇〇委員からいろいろ意見を頂いていまして、ダクトはかっこよく処理して欲しいと言われております。まず扁平ダクトにしています。それからリブをどうするか、工夫が見えるように、これは検討中です。ダクトの色に関しては、色々ご意見がありまして、最初は白にあわせようかなと思ったのですが、白にあわせますとダクトの熱の問題がありまして、数年間に一回全部塗り替えなきゃならない。大変なメンテナンスコストになりますので、このままの亜鉛メッキの色をみせようということにしています。このとびだしの代わりに、この面がみえてきますので、面に格子をつけようと、風の大庇のルーバーとこの部分のルーバーを調和するようにしています。材料は上のアルミ格子にあわせてアルミとしています。この部分は触れる部分なので、木の方がいいのではないかという意見もありますが、我々は合わせた方が一体の空間が生まれるので、その方がいいのではないかと考えています。平面的にはですね、風の大庇、この部分は全周850mの空の柱ですので、長い空間になります。1 km近い空間ですので、植栽が全部、カーブで均一ですと退屈な空間になってしまいますので、めりはりを付けております。今回、ベンチを設けたり、植栽がこの部分は深くて、この部分は厚い、そういうふうなめりはりをつけて、走っていても歩いても楽しい空間にするというデザインにブラッシュアップしています。エレベーションで、今の部分、空の柱を展開図で描いております、グレーの部分がダクトです、この部分のダクトを最小限の数に

抑えて、それを最小限の扁平ダクトにして、全体としてダクト部分は少ないですので、これは目障りになる、走っていて邪魔になることはないと思います。さらに設備の横引きスペースは無くすことができまして、すっきり縦のダクトだけがあるというデザインにすることができました。

次にエントランスゲートでございます。三箇所のエントランスゲートがありまして、ここから観客が入ってくる重要なスペースです。ここに関してはスタジアムに誘う、木のスタジアムに相応しいエントランスにしようと思ひまして、木製の格子のデザイン、木製の格子のデザインに関しては委員の皆様方からも良いんじゃないかと思ひ頂いていますが、一つメンテの問題がありまして、不燃木に法律上しなければいけないという問題があります。不燃木は雨が降って、水がかかると溶剤が出てくるので塗り直しが必要になります。そのメンテナンスコストをどうするかという問題がありますので、これに関してもご意見を頂きたいと思ひているところでございます。

コンコースのデザインは、機能を重視して、軸組をあらわす、ただ軸組をあらわすといっても、ちゃんと構造を規則正しく見せて、ちょうど格天井のような、日本の伝統建築、格天井のようなリズムを感じられるコンコースとしております。このあたりは、リオのマラカナンを見てきまして、コンコースがすごく雑然としていまして、あれは増築増築であんなコンコースになっていますけど、今回のコンコースは幅も全体に均一にとれていまして、それから構造体のリズム、それからダクトのリズムも全部正確にリズムにあうように配置していますので、マラカナンと比較にならないようなすかつとしたコンコースになるかと思ひます。

照明は、コンコースの流れを示すような、直線上の照明をいれています。直線上のLEDのLEDらしいシャープな線としていますので、絵をみると蛍光灯の安いトラフがついているのではないかと見えるかもしれませんが、トラフとは比較にならない細いシャープな線のラインが入ってきますので、現代的なシャープな線となっております。コンコースとつながる、こちらの空間、コンコースの照明とはがらっと変えてペンダントとなっております、ペンダントに関しては、詳細を検討中ですが、布のメンテがしやすいもの、風で大きく揺れないデザインを検討しています。コンコースの軸組あらわしの部分、構造体が規則正しく配置して、格天井のような日本らしい建築のある空間となっております。風のテラスが今回の風の抜け道として、コンコースから余裕空間として少し張り出してきて、ここから外を感じられるというのは、今回の一つ目の目玉となります。先ほどのパースにありました日本らしさを演出する行灯のようなもの、風が抜けるので、風であまり揺れないようなしっかりした固定の仕方をする、掃除のしやすいものにする、雨が掛かることはありませんが、自然の風ではほこり等で汚れが生じますので、汚れにくくてメンテがしやすいような素材としています。こちらが枯山水の部分でして、外苑の柱が見えるようになっています。断面で見ますと、ここは開閉できるようにしていますので、台風がきても完全に閉めることができます

ので、台風で飛ぶ心配はありません。技術提案時には、障子がついていたりしましたが、コンコースの延長線上で考えますと、あとでメンテを考えると大変なことになりますので、基本的にはコンコースはかなりあらっばい使われ方をしますので、床もコンコースの延長の塗り床にしまして、コンコースの延長なのですが、行灯によって、全然違う空間を味あわせる、メンテのし易いデザインにしています。

情報の庭、3階ですが、これも基本的にはコンコースの延長線上の空間としています。ただ、こういうところにアートがかかってくる可能性もありますので、照明の詳細な設計を進めています。これがそのアートがきたときでも対応できるようなライティングルールと行灯照明の組合せとなっています。枯山水の空間は、〇〇委員にもいろいろご指導頂いていまして、それに沿ってデザインを進めています。技術提案時には、情報の庭も、コンコースとは違って、例えば、ウッドデッキなどにしましたが、メンテの問題もあり、コンコースの使われ方、ビールやお酒を飲むところでウッドデッキが使われますと大変なことになりますので、塗り床としています。

フラッシュインタビューゾーンも、他の空間と異なることを意識して、行灯にしています。〇〇委員から行灯空間にしても、インタビューの時、マスコミが照明をもって来るから、調光できるようにご指導頂いてその方向で進めています。これがフラッシュインタビューゾーンの配置です、入ったときに両脇に行灯が並んでいる、高揚感のあるようなシンボリックな空間でございます。

エントランスA、地下1階の空間です、日本らしさを演出する大和張りの空間です。大和張りというのは板に凹凸をつけて立体感をつけて、高級な仕様ですが、その仕様としています。プランの考え方が通路をここにとるということで、技術提案時は全体にここからここまでという空間だったのですが、通路を区画してエントランスの空間は少し狭くなりました、その狭くなった空間、めりはりをつけまして、一番高いところは高くしまして、船底天井にしています。船底天井にすることでこの空間はさらにしまった感じにすることができました。和紙調クロス、これも和紙に見えますけどビニルクロスですので、メンテナンスがし易くなっています。3階のラウンジ、ここでも同じく大和張りの日本らしさを演出しています。

3階のホールAのこの空間は、打ち合わせをいろいろさせて頂いて、この様な会議のできる空間としています。壁は全部和紙調のクロスですので、機能的な空間ながら日本を感じられるようになっていきます。この部分、技術提案時は、文化体験ゾーンということで、こういう和のかなり濃いデザインとしていましたが、JSCと打ち合わせをしまして、機能的な会議スペースとして考えて欲しいと言うことでそれに合わせて意匠を検討しています。

ロビーの1階の部分、ここは折り紙状の天井を用いて日本らしさを演出しながら変化のある空間にしています。この部分はエスカレーターがついたという大きな変更がございます。エスカレーターがつくことで、以前の空間のデザイン、以前はこういう

船底がつながっているようなデザインでしたが、今回エスカレーターに合わせてエスカレーターによって上のコンコースに抜けていく感じをだすことができましたので、ロビーからコンコースにつながっていくエスカレーターの連続感をだすような折り紙天井ができました。

それから2階のラウンジです。これは日本らしさを演出する空間でして、これも以前に比べて少しブラッシュアップしました。技術提案時は、ここに文化体験ゾーンがございましたので、文化体験ゾーンとラウンジは見えただけがいいのかなと考えて開口を設けていたのですが、今回は完全に会議スペースになりましたので、逆に見るとまづいのでここを閉じました。閉じることですっきりと木格子と和紙調クロスの間にあることができまして、障子に関しては、〇〇委員からももう少し低い方がいいかなという意見を頂きましたので、私もパースを見まして、確かに孤篷庵とかああいう感じだともうちょっと低い方がいいかなと思ってもう少しさげる検討をしております。

【J V (大成)】 観客席の吸音、コンコースの防水、コンコースの天井の変更、せせらぎの見直し、P C段床とレイカー梁の接合方法、SRCからSへの仕上げについて、それからエキスパンション・ジョイントについてご説明します。観客席の椅子ですが、もともと吸音材が裏側に入っていましたが、メンテナンスに非常にお金がかかりそうである、雨掛かりの部分もあるので、雨掛かりの部分である1層、2層の部分について、これを取りやめてもあまり吸音効果が変わらないということで、これをやめるという提案です。

次にコンコースの床の防水仕様です。これは要求水準ではすべてアスファルト防水ですが、2階と3階のコンコースについては、かなり外部空間から隔離されていますので、雨が落ちてこない空間ということで、もともと技術提案のときからウレタンゴム防水としておりました。なお、1階と4階のコンコースについては、かなり雨が落ちてきますのでアスファルト防水のままとなっています。次にコンコースの天井です。これも技術提案の段階から天井がない状態、直天井で提案させていただきました。先ほどムービー、パース等で見ただけのように開放的な空間を目指しております。これに関しては、もともと天井があった場合の岩綿吸音板と同じ吸音効果が得られるようにグラスウール吸音材を天井に貼って対応します。

次、せせらぎの配置の見直しでございます。せせらぎの配置に関しては、我々の方で検討を進め、逆勾配になっている部分、せせらぎの配置が難しそうな部分については、タイルでせせらぎを表現するという提案をJ S Cにさせていただきました。しかしながら、もともとの技術提案の考え方を継承しまして、自然の水辺の継承を維持しながら、配置の見直しを再度行いまして、全体の長さを変えないで、もともとのコンセプトを維持する形で提案させて頂いております。

P C段床とレイカー梁の接合の方法でございます。もともとの提案ですとひび割れが生じる可能性がありましたので、その部分の改善を致しました。地下のSRCの柱

をソフトファーストストーリー、われわれが提案しております構造方法をより効果的にするためにS柱に変更させて頂いております。それに伴いまして、地下2階の斜路のそこに面する柱の仕上げに関して検討させて頂きました。耐火被覆、そのままですと、ぼろぼろ触った時に落ちてしまいますので、セメントスラリーで吹き付けて強固なものにして、触っても車の通行にも支障のないようにしています。 [REDACTED] [REDACTED]部分に関しては、そのグレード感に配慮し、アルミのスパンドレルと一緒に採用しております。

エキスパンション・ジョイントについてです。基本設計時の案は、この全周1階にわたって車いす席の後ろ側に、スライド形のエキスパンションを設けています。スライド式ですので跳ね上がったらず、安全だと考えて提案させて頂いております、また、必要に応じて実大実験もしまして安全性を確認しようと思っております。しかしながら、万が一、エキスパンション・ジョイントが変形してしまいますと通路の間のこの部分は完全に孤立してしまう形になりますので、その場合は車いすの方の避難に支障がでてしまうことが考えられます。そういうことを踏まえまして、段床納まり案を検討させて頂きました。これは、エキスパンションの位置を車いす席の下の部分、ここに滑り板を設けることで、段床の納まりのなかで変位を吸収していくというものであります。ただし、この案の課題としては、エキスパンションの変位の分だけ車いす席が後ろに下がってしまうということで、基本設計案に比べまして車いす席のサイトラインが若干悪化してしまうということがございます。これに関しては今いろいろと検証しておりますが眼高900mmとかなり低い眼高で見たとき、これはユニバーサルデザインワークショップでも要望がありまして、眼高900mmとかなり低い眼高でも見ることができるよう要望がありまして、検討させて頂きましたが、車いす席の方の車いすの形状等もいろいろありますので、そういうものを検討しながら、再度UDワークショップ等でこちらの案についてご説明が必要となります。こちらに関しましてはJSCとも再度調整しながらUD団体の方々にご納得頂けるようにしたいと考えています。

次に維持管理でございます。外装の木と植栽に関してご説明します。外装の木については、何度か委員会の場でもご説明させて頂いておりますが、技術提案の段階からなるべく雨がかりのない場所に使う、それから、そうは言っても雨が掛かる場所もございますので、基材の保護対策として、防腐処理をしていくということを基本に考えています。さらに、今回維持管理という側面から塗装系による表面保護対策を実施しています。左側の表でございますが、管理仕様Ⅰ、Ⅱ、Ⅲということでグレードを分けて考えています。管理仕様Ⅰというのは一番簡素な方法になります。これは通常はメンテをせずこのまま継続していく、20年ぐらいたった時点で傷んでいる部分に関して部分的に補修していく、これがだいたい10%ぐらいに調整していますが、それがこのグラフの青い線になります。管理仕様Ⅱは、それに加えまして、5年毎に保護塗装を

かけていく、5年毎に段階を経て、20年経ったときに部分的に更新していくというようなグラフでございます。管理仕様Ⅲは、それに加えて20年毎に全面的に保護塗装をかけていくというような塗装、それが一番美しく保てるようなものになります。この辺はランニングコストがかなり変わりますので、J S Cと十分に議論をし、どういうプランが一番いいのか協議していきたくて考えています。

次は植栽維持管理です。もともと技術提案の時には、管理仕様Ⅰというか、ある意味粗放系といいますか、本当に最低限の刈り込みだけというような提案をさせていただきました。しかしながら、委員会からもご指摘がありまして、これでは空の杜から植栽のプランターがきれいに見えないというご意見ありましたので、見せる管理という考え方で今回提案しております。特に、空の杜と植栽プランターに関して、かなり手をかける管理をしていくので、全体をきれいに見せることが可能と思います。灌水に関しても、自動灌水ではありますが、基本的に乾いたところに水をやる、それから枝をまめに剪定するとか、枯れている花をとる、そういった、まめに手をいれてあげることで、きちんと見せる庭を作っていくという考え方が管理仕様Ⅱになります。Ⅲになりますとこれはもう全体、敷地内とか、大地の杜とかそういうところもかなり手を入れて管理をしていくという考え方になります。当然のことながら全体の維持管理費が2200万円から2600万円かかりますので、このへんもJ S Cと協議しながら、どういった仕様がいいのかというのを検討していきたくて思います。

最後が不燃木の使用範囲でございます。エントランスゲートから入って軒庇の木とつながっていく空間ですので、ここはぜひ天然の木を使用したいと考えていますが、ここは避難経路になりますので、不燃の木材が必要になります。これは、やはり半屋外空間になりますと不燃の木材にしていると、だんだん溶脱していく、溶け出していくということで、それを防止するために5年に一回、ウレタン塗装をかける必要があります。そのコストを算出しますと、まさにこの場所で塗り替えることを考えますと、通行に支障のないような足場を組んでやっていくわけですが、5年に一回で3700万円ぐらいかかると試算しています。これに関しましては、我々としてはぜひ、非常に重要なエントランスの場所ですので、不燃の木材でやっていきたいと考えていますが、これもまた、J S Cからのご意見があると思いますので、協議をしていきたくて考えています。次に要求水準、それから提案工期、提案事業費について総括代理人の方から説明します。

先日、17日間のリオオリンピックが閉会式も幕を閉じました。9月のパラリンピックが終わりますと次はいよいよ4年後新国立競技場での開会式ということで、我々自身も我々チームも身が引き締まる思いです。超フロントローディングと称しまして、本日まで約200人のスタッフを1箇所の事務所に集結しまして、今日までJ S C及び関係者のご指導のもと、設計業務、施工技術検討業務を進めてきました。このあと要求水準の適合性、工期、コストについて現状の報告をさせていただきます。その前に、今後

の工程について説明させていただきます。本日、2016年の8月でございますけども、この10月から準備工事を着工するために、いよいよ今後は、10月から今回の契約をさせて頂きました後、ただちに準備工事に着手する、そして確認申請がおりたあと、12月より本工事に着手します。掘削工事が始まりまして、施工を進めて参ります。屋根の鉄骨工事については、2018年、再来年の4月から地組を開始して、工事着手します。上棟が2019年の2月を目標に進めます。最終的に引渡しは2019年11月末を目指して進めて参ります。この前に様々な各種検査、試験を行って引渡しをするわけです。その前の大きな目標としまして受電を2019年6月末で行う予定としています。この引き渡し後オリンピックの開催までに、様々な工事がありますが、我々新国立競技場担当と致しましては、2019年11月末の工期を遵守して進めて参ります。大きな工期は以上です。要求水準書の適合性の確認状況について、説明致します。8月5日に価格等の交渉に必要な設計成果物の一部を部分引渡しさせていただきました。この際に価格交渉等に係わる要求水準の確認事項につきましては、JSCの総括監督職員を始めとして、担当の皆様にご適合の確認をいただいております。今後いろいろな事情でやむを得ない理由で設計変更等対応しなければいけない時は、資料を作成し、ご提案ご説明させて頂き、要求水準を遵守する目標で進めて参りますので、ご指導ご協力のほどよろしくお願いたします。工期についてでございます。今回ご契約させて頂きます内容について、2019年11月末引渡しを遵守致します。これは提案時からの方針として変わっておりません。ですが、工期を守るために総括代理人として大きなリスクと考えている点が3つございます。1つ目は、いかに12月本工事をスムーズに着工できるかです。現在調査中ですが、現状やはりすでに多くの想定外の地中障害が発生しております。また事務所の設置、ヤードとして使用しますA3地区も立ち退きが難しく、色々な問題があります。また下水道本管の移設につきまして、JSCにご協力を仰ぎながら、10、11月の準備工事期間で対応できるかを命題に掲げて進めて参ります。2つめは工期の遵守を目標にしますが、実際には大成JVだけで全て処理ができるものばかりではありません。現在、大成JVが知り得ない情報もあります。たとえば、本工事中に我々が対応すべき別途工事がどれぐらいあるか、またオーバーレイやオリパラの関連工事、また競技場の周辺の道路の工事、若しくはインフラの整備工事、周辺の建設工事、どれぐらいの量があって、いつ誰が行うのか、どれだけ我々の本工事に影響がでるものがあるのか、これらをしっかり調整したうえで、工事を完成させなければいけないと考えています。大きな調整が必要になると考えていますので、内閣官房、JSCの皆様のご協力をぜひとも頂きたいと考えています。3つ目は引渡しの時の姿、2019年11月末に引き渡しますが、これは大成JVの工事だけが終わればよいというわけではないと考えています。引渡しの姿をできるだけベストな状態にするためにも、今後は工事監理チームが主体となってそれぞれ期限を決めて進めて参りますので、JSC、関係各団体の皆様のご協力を宜しくお願いたします。

最後にコストについて説明します。第Ⅱ期事業の工事費につきまして、提案事業費を遵守します。契約の諸条件をしっかりと協議させて頂きまして契約させて頂きたいと思っています。今後も、チーム一丸となって、工期、コスト遵守を目指して最大限の努力をしていきますので、ご指導ご協力のほどよろしく申し上げます。

【〇〇委員】 ご説明ありがとうございました。審議すべき点はいろいろありますが、最初に3点について審議したいと思います。1つ目が空の杜の開放性、ダクトの扱い、2つ目が風の大庇アルミルーバーの変更、200×200を200×60にする点、3つ目がエントランスの天井の材料です。この3つについて、まずはご審議頂いて、その後、これ以外で委員の皆様方のご関心の点について調査審議ということで進めたいと思います。まずは最初の3点についてご質問のある委員、ご発言をどうぞ。

【〇〇委員】 エントランスのところで、フェイクを使うかジェニユインを使うかでメンテナンスの話がある。庇のところもメンテナンスコストがある程度リーズナブルであれば、本物の木を使いたいということだと思う。この時に、隈さんはエントランスをどうするかということは、この資料をご紹介された時に設計者としての考えは表明されなかった。願望としてはどちらにあるのか。

【J V (隈氏)】 エントランスのところは一番の顔ですので、本物の木を使いたいというのが設計者の気持ちです。

【〇〇委員】 庇の話とエントランスの話がいま、木の利用とメンテナンスコストで出てきたわけだが、他に同様の問題ありそうなところはないか。

【J V (隈氏)】 主なところは以上です。

【〇〇委員】 空の杜の回廊やエントランスのところに、ジェニユインな木を使うのか。本物の木なのか、という意味だが。

【J V (隈氏)】 空の杜のところはフェイク。フェイクという言い方は私は好きではないのですが。

【〇〇委員】 フェイクということは、アルミなのか。そういった箇所は、他にも何か所か細かいところではあるのか。

【J V (隈氏)】 かなり細かいところまで説明しましたので、これで全部と考えていいかと。

【〇〇委員】 この資料で、ジェニユインな木を使うか、フェイクを使うかの設計の問題と費用の問題で言えば、イニシャルコストとメンテナンスコストの兼ね合いを、今日いくつか資料だしてもらったわけだが、その最終判断をいつまでにすればいいのか。

【J V (大成)】 設計者としては、価格交渉に向け、今日、やはり方針を立てたいと考えています。

【〇〇委員】 参考に申しあげますが、ジェニユインな木にするかアルミにするか、委員から参考意見を申しあげますが、ここはディテールを決定する場ではありません。メンテナンスコストも含めて、J S CとJ Vで協議して決めることになりますので、こ

の委員会のミッションについてはお含みおきください。

【〇〇委員】 デザイン論については言いたいことはたくさんあるが、デザイン論を語る場ではないということ。まず、大庇だが、最初の技術提案段階、ヒアリング段階で、一番上はアルミ、下は木ということをおっしゃっていますので、それはそのとおりと
なっている。その時の審査員としての判断は、大庇は下から相当離れていて、高いところのため、フェイクでもあまり関係ないと判断した。下のところは、木の垂木で、それはそれでいいと思うのだが、先ほどの隈さんの説明では、その連続性をもちたいと説明されたのが、私の解釈とは違う。今回の提案は、審査の前に国民に技術提案書を全部見せて、特に法隆寺の五重塔の垂木の写真を見せて、こういう感じでやりたいとおっしゃっていたので、私もヒアリングの時にこの垂木の断面がどれぐらいか質問して、200×200とお答え頂いている。それも含めて判断して、日本らしさって、もともと中国からきた木造建築ですが、木造建築らしさを表現するものだと、私は判断したけれども、先ほどの隈さんの説明は、どちらかというと軒先の線を細くしたいというデザインだったのではないかと思うが、社寺建築でなくて数寄屋の考え方だと思う。コンコースのあたり、格天井にしたいっていうのは、これは社寺建築の考え方である。やはり、表面的な社寺建築的な木造建築らしさを出したいとおっしゃっているが、先ほどのご説明で、こう変えたいという話は、国民の何割かは、最初の説明と違うのではないかという気持ちを抱くのではないか。そこを懸念する。空の柱を歩いているときがかなりこの施設は重要だと思うが、その時の軒先の線が実はほとんど見えない。技術提案書でも本来の五重塔っていうのは二重垂木になっているような、軒先をみせているわけだから、今回の変更というのは、デザイン論は別としても最初に言っていることと違うことにしたいと言われているようにしか思えない、それがかなり強い。

【J V (隈氏)】 今回、お寺を建てるわけでもなく、数寄屋を建てるわけでもなくて、現代建築を建てるわけなので、現代の感性からみて、きちんとしている建築にすることが重要だと思っています。実は、法隆寺の絵を見せた時も、お寺風にしたいということで見せたわけではなくて、何しろ場所が神宮、明治神宮ですので、お寺風にしたいという気は全く無くて、あれは庇が重なっているもの、庇が重なっている条件で、その下に影をきれいに作りたい、ということで法隆寺の絵をお見せしたのです。それが、隈は、お寺をつくりたいんじゃないかと誤解を招いたならば申し訳なかったですが、基本は、影の重なりということであの参考例を用いさせていただいたわけです。今回は現代建築ですので、そのなかに、お寺から学ぶ要素とか、数寄屋から学ぶ要素とかいろんな要素が混じっていますけど、全体として木を使った現代建築として、やはり現代にふさわしいものにしたいということで、デザインをブラッシュアップして参りましたので、そのあたりは私どもとしては自信のある変更でございます。

【〇〇委員】 一言付け加えます。〇〇委員の補足をさせてもらおうと、国民の皆さんが抱

いている当初の印象に背かない範囲において、デザインのブラッシュアップをしても
らいたいと思います。

【〇〇委員】 もし変更するのであれば私としては非常に残念ですとしか申し上げられな
い。

【〇〇委員】 他にありますか。

【〇〇委員】 ダクトに関しては、今日の説明でいろいろ工夫と言われたが、亜鉛という
よりは、ガルバリウムと聞いているから、アルミニウムの表面になると思うが、それ
はそれでいいと思う。やはりこの絵のようなダクトではなくて、せつかく4年後の建
築ですから、画期的なダクトをぜひともやって、こういう作り方もあるのかというの
をぜひ考えて頂きたい。実際には設備系の担当がやることになると思うので、意匠設
計と設備系が連携して、こういう考え方もあるよというダクトにして頂きたい。

【J V (隈氏)】 それは私もぜひそのようにしたいと思っています。

【〇〇委員】 最近の建築では、天井裏のダクトなどは、露出させてもみなさんそういう
ものだと思っている。しかし、通路でダクトが突然でてくると違和感があるので、そ
ういうことがないような色とか形とかデザインに配慮してもらいたい。

【J V (隈氏)】 了解しました。

【〇〇委員】 今日の説明を聞きまして、我々が一番気を遣わなければいけないのは、先
ほど〇〇委員がおっしゃったように、この案を現実的な工程とコストにあわせていく
上で、どの程度の変更が許されるのかは、J S Cとの契約もさることながら、このデ
ザインのプロセスを国民に公開していたわけですから、国民との契約という側面もな
いわけではない。国民に残された印象というのは、いったいなにか、A案での印象と
いうのは、明治神宮という環境にいかにか調和しているか、それから日本らしさを強調
する、その日本らしさを強調するという事で木材という素材をかなり重視している。
それから渋谷川含めた周辺の環境と建築物がいわば一体性をもったデザインになって
いる。このあたりがどんな感覚をもった方々にも共通した印象だと思う。その時に私
は伺いたいのだが、当初の提案時と現在と木材の立米数どれぐらい変わっているのか。
総量で。

【J V (大成)】 まず、大屋根の集成材ですね、これは1800m³ということで、変わってい
ないと思います。

【〇〇委員】 大幅に変わっていないということか。

【J V (大成)】 大屋根の部分は変わっていないです。

【J V (隈氏)】 空の柱のところは、もともとアルミですから変わっていないですね。

【J V (大成)】 エントランス以外は変わらない。

【〇〇委員】 ウッドデッキは少し減っているが。

【〇〇委員】 これは安全性を考えたうえでのもので、それでいいと思う。あまり大幅に
変わっていないと言うことであれば、これは心配ないが、そうした場合、今度は、印

象の問題で、エントランスだ。これはやっぱり木でやってもらいたい。それは先ほどいった国民に与えた印象である。その時にメンテナンスのコスト、3700数十万円という数字が、さっき口頭で説明がありましたが、もっと合理的な方法はないのかと。例えば、パネリングにして、そのままユニットで外して、その場で高足場を組んで腹ばいになってというような前世紀的な発想ではない、そういう発想でメンテナンスコストを低減しながらも、本物にこだわるという提案をぜひやって頂きたいところである。ライフサイクルコストから言えば、JSCの立場からすると、管理コストがかかるというのは大きな問題ですからね。そういう点をJVとして提案頂きたい、そして本物にこだわってもらいたい。

【〇〇委員】 関連していいでしょうか。エントランスの不燃木だが、5年間で3700万円というのは、1年間で700万円。この建物全体を維持するのに年に20数億円かかるという説明だったと思う。これだけ大きな建物を造るということで、その位かかるのは、そうなのであろう。そこで、20数億円のなかで700万円って、印象がはるかに変わるのですけれど。JSCの問題として、どう維持管理費を判断するか、維持管理費の配分をどうするかということだと思う。高いということだが、むしろ〇〇委員が言われたような、メンテナンスしやすい方法とか、個人的には不燃木が地球環境的にも決していいとは思わないので、本物の木を使いたいのだが、法令上でどうしても要求されるとすれば、仕方ないと思うが、これは検討して頂いた方がいい。

【〇〇委員】 委員それぞれのご意見もあるし、隈さんも木を使いたいという思いがあるようですが、一方でメンテナンスコストという大きな問題もある。この問題は今後JVとJSCで詰めてもらうということではいかがでしょうか。私の考えを一言申し上げると、木目調のアルミというのは、工業材として多くの国民に受け入れられているのではないかと思います。これをフェイクというように断定する見方は近年減ってきているのではないかと思います。これも工業製品のひとつです。今時は、ごく近くで見ないとアルミか木かわからないものもある。

空の柱の開放性、ダクトの問題と、大庇のアルミルーバーと、エントランスの材料の問題については、こんなところでよろしいでしょうか。これ以外で委員の皆様方からご意見があれば、ご発言をお願いします。

【〇〇委員】 関連して植栽の維持管理で今回、管理指標を3つ提案していただいて、JSCの判断を仰ぐというのは結構だと思う。これもJV側というよりJSCに対する意見ということになるが、先ほど申し上げたように、年間の維持管理費が20数億円かかる建物のなかで、空の柱が、今後将来的にもオリンピック後もこの建物の象徴になるとすれば、そこにお金がかかるというのは当然なことで、きちんと説明すれば、全体でこれだけかかるなかでこれだけです、決して高いお金じゃないと。費用対効果を考えれば、すばらしくなる要素だと思うので、その辺は十分ご検討頂きたい。

【〇〇委員】 先ほど、提案時には粗放的に、あまり管理しないで、プラントボックスや

植栽の管理をイメージしているとおっしゃいました。本当に粗放的に放っておいてうまくいくのでしょうか。建物として景観上、支障が発生しないのでしょうか。

【J V (隈氏)】 提案時はですね、粗放的なものでと提案したのですが、そのときから、質問で、実はススキなんかは放っておくと大変なことになると、疑問がでてきましたので、そのあたりの疑問を精査した結果、このあたりが妥当だと考えました。

【〇〇委員】 その方が、去年暮れに発表したパースなどの印象から考えて、国民の期待に沿うものではないかと思う。もう一つ。ムービーで屋根をみせていただきましたが、もう一回見せてもらいたい。屋根のある部分が透け透けに見えたのですが。下から見たスタジアム屋根のところですか。はじめからこういうイメージだったのですか。

【J V (隈氏)】 変わっていません、これは。

【〇〇委員】 関連して、先ほど木材の使用量1800m³と言う話があったが、これの調達の見込みとか、準備とか、その辺は順調なのか。

【J V (大成)】 屋根の木材の話ですが、順調です。実際に我々の技術検討業務の中で調査確認しております。現状、大きな変更がなければ問題ありません。

【〇〇委員】 産地が、例えば、北海道あたりを中心に、全国から調達するとか、いろんなやり方があると思う。そのところは国民も関心が高くて、どういう形で実施設計になって、どういう材料調達するかというのは、ある意味キーワードとした方がいい。実際にいろんな地方から集めるのか、一定の産地から集めるのか。

【J V (大成)】 木材となると、できる限り全国からというふうに考えています。屋根の木材については特別なので、調達の方を中心に、ある程度限定して、工場、事業者を選定しています。全体的に日本地図を置いて、できる限り全国から調達できるように検討しています。

【〇〇委員】 大庇のルーバーのサイズについて、事前の説明では、隙間から構造体を少し見せるために、200×200を200×60に変更するという説明を聞いておりましたが、今日はその話がありませんでした。

【J V (隈氏)】 ルーバーの隙間は、虫除けの透明なメッシュがありますので、奥行き感がありますので、それに対しては、薄いものを張ったというのではなくて、その奥にスペースがあるという感じになると思います。

【〇〇委員】 いえ、200×60にすると、その隙間を通して構造体が見えて、その方がデザイン的に優れて見えるというような話だったと記憶していますが。

【J V (隈氏)】 その点は、実は微妙ところがありまして、200角だとデプスがありすぎて、実はみんな斜めから見るので、真正面だと透けるのですが、ちょっと横だと見えなくなるのです。逆にパースで描いてみたら、200角だとすごくべたっとして、深すぎてもこんなにべたっとしているのだと。その辺の検討の結果、今のデザインに落ち着きました。

【〇〇委員】 その辺の検討の結果、200×200を200×60にした方が、小屋裏が見えていい

ということですか。

【J V (隈氏)】 ちゃんとルーバーにみえる、一個一個がピースに見えるということですよ。

【〇〇委員】 私は、陰影で奥行きが深い方が良いと思うが。パースは質感が全然なくなるので、中の天井の大和張りのところもそうなのだが、実際にはもっとよくできると思う。

【〇〇委員】 できれば、本当はモックアップが見たい。もう一つよろしいか。私が非常に重要だと思っているのは、座観、座ったときの見え方が重要だと思う。ここの良さは流動性が高いこと。すべてのものが今のムービーではないが、シークエンシャルに見える。そうすると天井のテクスチャーと壁のテクスチャーと、こちらが開放されていて床のテクスチャーでどういうバランスになるかということが極めて重要だと思う。その辺の素材の選定の仕方というのが、上が変わった以上、下も変えていかないとはいけない。その時にどういう素材の選択をするか、すごくある種、日本らしさという面での、デザインへのコメントが入って申し訳ないのだが、例えば、壁のところにべたっと木があるわけですよ、あの木の刈り方もちょっとした一工夫で、全然シークエンシャルな雰囲気が変わってくると思う。その辺について、ぜひ検討して頂きたいと思う。シークエンスにもものが見えてくる、そこに日本の路地とかの回遊性の意味がある。そういう意味では植栽のところ、向こうを見せるという空間をつくるという提案は非常に良かった。ただし、あれも高さについて全部調子を揃えるのではなくて、高さについてもこういうような変化をもたせる。800mというのが、これこそが肝だと思うのだが、800mがどういう見えがかりに見えるのか、しっかり整理して頂いて、良い方向に選択して頂きたいと思う。

【J V (隈氏)】 今の素材のシークエンスの話は、非常に重要な話だと思っていて、これから実際の色も含めて決めていくときに、実物を使いながら検討していきたいと思えます。

【〇〇委員】 照明のぼんぼりについては検討中ということだが、鳥害や虫害が心配されるが、そのあたりの維持管理も絡むと思うが、検討はされているのかどうかをお答え頂きたい。

【J V (隈氏)】 鳥害の問題も検討しています。メンテのことと、鳥とか蜂が入って巣を作ることがないようにディテールで検討しています。

【〇〇委員】 まさに、鳥害もあるが虫害も心配である。ああいう形になると虫が好きなんです。中に蛍光色のものが入ると、必ず虫が集まる。そうすると虫がどうなるかという、逃げ場を失って、下がったところにずっとたまる。これが要するに見た目に大きな問題になるので、できるだけ、忌避色、虫が嫌いな色、或いは虫が嫌いな光源、そういうのを検討してもらいたい。もうひとつ、布の場合、静電気が起きると、静電気で埃を集塵してしまうので、静電気が起きないような布をどうやって考えるかと。同時に先ほど申し上げたように忌避色、そういうのを検討してもらいたい。これはメ

メンテナンスの上では非常に重要だと思う。

【J V (隈氏)】 わかりました。

【〇〇委員】 設計の話以外でもよろしいか。工期のリスクを挙げて頂いたが、コストのリスクは、時間がなく説明頂いていないが、こっちの方が結構リスクだと思う。割と材料価格は、去年の12月からそんなに大きな変化がないのではとあっていて、ある意味、これから価格交渉でいうと、価格交渉のリスクはあまりないのではと個人的には思っている。その他の提案して頂いている事業費を守るうえでのリスクがあるとする、今時点で何なのかご説明頂きたい。

【J V (大成)】 基本的に我々が契約させていただく図面のなかのものを作り上げていくことについては、ほとんど、調達含めてリスクはないと考えています。今後のリスクを挙げるとすれば、外部の団体を含めて、我々の引渡の工期の期間内に一緒にやらなければいけない工事が発生するものが、我々のスケジュールに協力して頂けることが前提だとしても、そういったもののコストが、各団体がそれぞれ費用を用意して、発注して頂くなり、やらせて頂く分にはいいのですけど、そういったものを減額提案しなければいけないとかいう作業がでてくるようでは、ちょっと難しいのかなと思います。おそらくいろんなことがあると思います。行政の指導とか、周辺の諸官庁の指導とか、ありますけど、それは、しっかり大成J Vで達成していくべきだと思います。ですから、一番大きいのは、大成J Vだけでは届かないような、東京都だったり、組織委員会だったり絡むような工事がある時は、お力をお借りしたいというのがあります。

【〇〇委員】 今の要求水準でJ S Cが求めている範囲では、基本的に納まるということではよろしいか。

【J V (大成)】 はい。

【〇〇委員】 他の工事、オーバーレイを含めて、そこで非常に重要なことは、運営があって、あとから、必ず、いろいろなものをつけたがるのですよ。いろいろなものを張ったり、ぶらさげたり。そこで、できるだけJ S Cの側で、運営に関わって必要と思われるような、そういうものを先行して検討して頂くと良い。それが先ほどの800mのあの壁、あの壁に上手に活用して、シークエンシャルの変化をそこにつけていくような方法で。工期の問題と容姿の問題を含めできるだけ仕上がりが良い形をつくるというのが大事である。

【〇〇委員】 引渡後の話なのか、それとも引渡前の話なのか。

【〇〇委員】 引渡後です。設計側でそれ用意しないとそういう問題が起きる。それが、結果としては、外周部の800mの壁があるわけで、こういうところに広報してくださいという場所をしっかりデザインした方がいい。

【J V (隈氏)】 そこは凄く重要だと思っていまして、例えばスポンサー企業の広告みたいなもの、そういうものが乱雑に後付けされちゃうと、めっちゃめっちゃになってしまう

ので、そのあたり、最初から想定して設計できたらいいと思います。

【〇〇委員】 見識の問題ですね。

【〇〇委員】 両方の見識の問題。設計側もそういうものを受け入れる体制でデザインを仕込んでおくのが大事。

【J V (隈氏)】 そういうことは絶対駄目という先生もいるのですが、我々はやっぱり、受け入れてデザインするように最初からやんないといけないと考えています。

【〇〇委員】 59頁についてですが、和紙でインテリアをやるというのがでております。こういう大きな建物では、コンクリート打ちっ放しが使われることが多く、普通の人には遠くからグレーをみれば、和紙の仕上げでもコンクリートの打ちっ放しと誤解することが多いわけです。小さなレストランだったり、料亭だったら、近くから見るから和紙の仕上げであるとわかります。和紙のデザインが、意図があって和紙にしたというコンセプトが、遠くであってもわかるように配慮してもらいたい。

【J V (隈氏)】 まさに素材選びで一番重要なポイントで、空間が大きいので、普通の和紙調クロスを貼るとただのグレーにしか見えなかったりするので、少し柄の大きな物を選んで、遠くからでも和紙に見えるものを選ぼうとしています。

【〇〇委員】 最後にエキスパンション・ジョイントの話があったと思うが。今回の新しい提案は、金物を使わないですむのか。

【J V (大成)】 そうですね、金物のないディテールです。

【〇〇委員】 成立するのであれば、金物がない方がデザイン的にもいい。構造的な成立性があれば、今回の方がいいのではないかと思う。

【J V (大成)】 エキスパンション・ジョイントのディテールは、図面をつけさせていただきました。

【〇〇委員】 こういう図面は部分的だから、曲がっているところもあったりして、設計変更は往々にして、そこから波及する傾向がでてきたりして、ある意味、言葉で言えば直すところが見逃されて、残って、それが結果的に不具合で、動くところは危険性が高いので、その検討がされていて、成立性があるのであれば、今回、この観客席の下におくという方に、この提案を進めては、と思う。

【J V (大成)】 段床の納まり案で進めると言うことで考えてきまして、これを提案する以上はきちっと成立するかどうかはいろいろと検証しました。はね出しでやったらどうか、その方がシンプルじゃないか。しかし、はね出したと、揺れが大きくなるのか。どういう方法にすれば、一番危険性を少なくできるのか。それから段床をどこで切るのが一番避難に支障がないのか、そういうことをとらえた上で提案させて頂いています。今後、さらにいろんな本当に問題がないか十分つぶしながら検討していきたいと思っています。

【〇〇委員】 他にございませんか。J Vのみなさん、ご説明ありがとうございました。〇〇委員がおっしゃった「国民との契約」だというご指摘は、私も全く同じ意見です。

設計の細かい点については発言がありました。我々の発言は参考意見であります。あとは設計する側とJSCで、メンテナンスコストなどを含めて検討する問題であります。基本的には、関係閣僚会議で示された基本的考え方、そういったものを踏まえて、価格を含めて国民が期待しているものに沿った設計を進めて頂きたいと思っております。

【JV】 ありがとうございます。

(JVは、ここで退出)

【事務局】 大きな3つの論点のうち、空の柱のダクト部分については、デザイン上の工夫が必要というコメントがありました。隈さんももっと考えるとおっしゃっていたのでそういう形で進めたいと思っております。エントランスの木の利用のところは、コストの関係で言うと、JSCとしては難しいというのがあります。内部でも議論したのですが、過度な負担になるのは難しいだろうと思っております。一方で、〇〇委員の方からもう少し提案はないのかとJVにご指摘がありましたので、ここは時間との勝負というのがあるのですが、できるのであれば考えたいと思っております。今日、JVから説明なかったのですが、木を不燃にすることと、アルミにすることとで、お金の差がでないということであれば、最終的にデザインのところですので、価格交渉のなかで、契約してもそのなかでできるということであれば、それはあり得ると思っております。ただ、現実的に維持管理のコストがかかるという部分が残ってしまうということであれば、全体のなかでの話ではあるものの、やはりどこまでやるか、ということになります。例えば、エレベーターとか設備の維持管理について法令で必要なものと比べると、議論がなかなか難しいところでもあります。どちらを採用するのかは、JSCとJVの議論にお任せ頂きたいと思っておりますが、委員にも相談しながら進めて最後には報告したいと思っております。また、大庇のアルミルーバーについて、コストの説明はなかったのですが、私たちが聞いているのは、コスト的には変わらないということです。その前提で、今日の説明は如何でしたか。

【〇〇委員】 〇〇委員がおっしゃったように、設計はJVがするという前提で、国民に対しての説明責任もJVが持つということだから。ただ、まばらなところと密なところがあって、それを平たいのですというのは隈流ではあるのだが、まばらなところはちょっと心配なので、せいが高い材料を使って、密なところは平たいものを使うとか、それぐらいやってもいい話である。設計の余裕があって、あれだけの量を押し出すのであれば、というふうに思うのだが。コストの話もあり、施工側と設計者とのせめぎあいも含めて実態はどうか分からないが。

【〇〇委員】 デザインを詰めていったら先端のパーズは重要だという点に思い至ったので、多少法隆寺のイメージと変わるかもしれないけど、現代建築として変更を試みたいという、設計者のデザインの意図について理解をしました。

【〇〇委員】 私もコストの話を出したかったと思うけど、隈さんの現代風の、和風というか、それを指すという設計者の主旨だったので、設計者がこだわって説明する

のならば、それはあるのではないかと思った。

【〇〇委員】 40m先だから、僕は納得できないが。あまりにも高いので、つき詰めていくと、見付で75か60で全然違って、隣のテピアは、方立てが75が普通なのに60にしているのだが、ものすごくきれいなのですよ。デザインというのはそれぐらいのものである。まっすぐみるところか、40m上かでも違うが。でも、隈さんの設計にもいろいろあるので。実は、未発表のものをつい2週間前にスイスで見てきて、木の内装が大和張りの的なのがすばらしいので、隈さんもだんだんうまくなっているし、期待している。

【事務局】 設計者には説明責任があると委員の皆様方から何度もおっしゃって頂きましたが、そのなかで、今日は設計者、隈さんの説明があったと思います。一方で、これまでの説明で誤解を与えていたのは申し訳ないとも説明の中でおっしゃっていました。社寺建築みたいな形の説明になっていたということで、説明の反省点として、記録に残した方がいいと思いますので。〇〇委員は、お寺と誤解をしていたわけではなくて、もともとそういう設計だと理解をされていたということでしょうか。

【〇〇委員】 明治神宮も垂木なのですよ、社寺の社は神社ですからね。

【事務局】 ご意見を頂いた点はきちんと記録に残し、今後設計者からも情報発信して頂くことになると思います。委員会はいろいろな観点でコメントし、設計者が判断すべき事項について、委員会として助言するミッションは果たして頂いたと思います。

【〇〇委員】 エントランスの不燃木だが、スプリンクラーの代替え措置は、どうなのか。

【事務局】 代替え措置は可能とは思いますが、スプリンクラーのコストはものすごいものになります。

【〇〇委員】 状況にもよりますが、木よりアルミが高級なときもありえます。

【〇〇委員】 さっき言おうと思ったのだが、木の良さって変化して劣化するところなのです。日本建築の良さって、非常に不思議なことに、劣化して灰色になることが良いと言っている。中国からきた建築というのは、朱に塗ったりして、実は変わらなくてアルミと同じ様な感じなのです。日本らしさっていうのは、木が劣化していくのが日本らしさと、我々はいつのまにかこの400年ぐらいでとらえるようになったのですね、その辺を国民がどうとらえるかということだと思う。

【事務局】 国民がどう思うかというところは大事だと思います。現代建築として、ということを隈さんはおっしゃっていて、全体として、杜のスタジアムというコンセプトは変わっていないという説明でした。

今後、JVとJSCで、価格交渉を行った結果を委員会でご審議いただいて、そのなかでデザインについてのご指摘があれば、それはその都度伝えていこうと思います。委員の皆様方には、より良いものをつくるということで、非常に熱心にご発言していただいたと設計者は受け止めていると思います。隈さんも、委員への事前説明時の指摘内容を反映しつつ進めますという説明もされたりしましたので、委員からの意見も非常に効果的に入っていると思います。

【〇〇委員】 〇〇委員が国民との契約とおっしゃったのは委員の総意であると思います。その視点を忘れないで、今後の設計活動に臨んで頂きたい。その前提として、関係閣僚会議で決まった整備計画や基本的考え方に沿ったものにすることは当然であります。

【事務局】 ご指摘ありがとうございます。価格等の交渉に臨む方針のご指摘を頂いたと思っております。

【〇〇委員】 先ほどの議論を踏まえると、これまで説明があったように業務要求水準を確保すること、提案事業費を守ること、期限を守ることは、当然の前提として確認するという方針ですね。

【事務局】 残りの資料として、参考資料1と参考資料2があります。参考資料1は、設計交渉・施工タイプについて、公表されている前例がありましたので、そのご紹介です。31日の委員会で、当案件について文章をどうするか、その辺をご確認いただこうと思います。

それから、参考資料2は、林野庁が木製椅子に関する公募を行っているというものです。林野庁が今後公表した結果について、採用できるという判断に至ればそれを採用するということになるかと思いますが、これからの判断となります。

【〇〇委員】 技術的に価格的に可能な提案があったら、木製椅子の提案があったら、反対することはないのではないのか。

【事務局】 そうですね。価格もイニシャルとメンテナンスがありますので。

【〇〇委員】 メンテナンスも含めて。

【事務局】 どれぐらいの提案がでてくるのかもあります。

【〇〇委員】 委員会は、11月までですか。

【事務局】 1期契約の完了予定である11月末までです。

【〇〇委員】 それまでに決まりますか。

【事務局】 方向性はおそらく決まると思います。

また、議論の途上ですが、ガラス面のルーバーを止めるという話があります。もう少しシミュレーションをしなければいけない状況でして、温熱環境の話ですので、委員長とも相談しながら、確認をしたいと思っています。実は、コスト減につながるものですので、例えばコントロールできないコスト増が発生したときに、この内容とバスターにできるかどうかということも含め、その時点でご相談したいと思っています。それからもう一つ、人工地盤の縮減につきましても、もともと去年11月の段階で提案がありました。行政協議を進めたいという話がある一方で、東京都や区にどう受けとめられるか、相談ベースで話をしていく予定です。都市計画の論理からすると、建物の都合で都市計画を変更するというのは、難しい。もともと広域的に都市計画が決まっていて、ルールが決まっているなかで建築計画をするというのが流れです。もっと色々精査して、必要性みたいなものをまとめて、もう少し内容を詰めて、進めて行く必要があると思います。デザインの的にもよくなると思いますので、我々、行政とは

一生懸命取り組みたいと思っています。補足の説明は以上です。

今日は、隈さん他設計者にご説明を頂いたのですが、よろしかったでしょうか。

【〇〇委員】 大変結構でした。

【事務局】 今日は以上となります。ありがとうございました。